

# 敬和創



上田市立第六中学校  
学校だより No.11  
令和7年1月31日(金)



## ★48 日間の 3 学期～時間は有限,可能性は無限

いよいよ  
先輩に!

1 学年  
中学校説明会の  
堂々とした  
発表の姿



始業式 1 学年代表



受験は団体戦!  
周囲への感謝を忘れ  
ないようにしたい。

2 学年代表

3 学年代表

- |                                                     |                                                  |                                                               |
|-----------------------------------------------------|--------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------|
| ①学習:授業集中してテスト対策を。                                   | ①部活動:吹奏楽部のアンサンブル<br>コンテストが近づいている。<br>精一杯取り組みたい。  | ①学習:理科が苦手。苦手と<br>向き合って少しずつ克服<br>していきたい。                       |
| ②生活:中学校説明会の成功を<br>目指して普段の生活からしっかりと。<br>頼られる先輩になりたい。 | ②学習:3 学期はテストが 1 回しかない。<br>そのために学習をしっかりと<br>行いたい。 | ②生活:2 学期は朝起こされないと<br>起きないことが多かったが<br>学期末にはその習慣を<br>改めることができた。 |
| ③部活動:美術部としての活動を<br>アピールして、多くの後輩に入学<br>してほしい。        | ③生徒会:生徒会長として責任をもち<br>先輩たちの思いや活動を引き継ぎたい。          | 受験まであと 2 ヶ月。今頑<br>張れていることを続ける!                                |
| ④修学旅行:友だちと良き思い出をつくりたい。                              |                                                  |                                                               |

2 年修学旅行下見報告会 ↓



3 年 最後の参観日に向けて保護者への一言メッセージ ↑

## ★3学期始業式校長講話～「始末のできる一流の人間」



いよいよ令和6年度のもよみの3学期が始まりました。今日、みなさんに話をしたいことは、「始末のできる一流の人間になってほしい」ということです。生徒会で力をいれていることのついに清掃があります。まず清掃の話から始めて、「始末」について考えてみたいと思います。

清掃は誰のためにやるのでしょうか。また、掃除をすることによって、何がかわるのでしょうか。清掃は、汚れているところをきれいにします。二学期の終わりに、皆さんの清掃の様子を見て回りました。トイレ掃除で便器を一生懸命磨いている生徒、膝をついて床を集中して磨いている生徒がいました。この2人に共通していることは、腰がしっかり入っていることです。「きれいにするんだ」という「心の腰」が入っているのだと思います。「汚いところはいやだなあ」とか、「汚いところを避けてやろう」とか「適当にやればいい」という中途半端な気持ちで取り組んでいる様子はありませんでした。夢中になって、心を集中して汚れているところをきれいにしています。私はこの姿を見て、この人たちの心は、とてもきれいなのだろーうと思いました。つまり清掃は、汚れているところをきれいにすることによって、自分の心をきれいにしているのだと思います。

また、学校を回ってみました。皆さんが一生懸命清掃をしてくれているので、学校もたいへんきれいです。でも、校舎の回りや自転車置き場近くを回ると、ゴミが少し落ちていました。皆さんがこんなに一生懸命清掃をしているのに、ゴミを捨てる人がいるのでしょうか。それは外部の人でしょうか。軽い気持ちで捨てたのでしょうか。私は、重い気持ちで拾いました。ゴミを捨てる人は、ゴミと一緒に人間性までも捨てているような、そんな気がしました。しかし、私はゴミを拾うことによって、何か心がすっきりしました。一つ心がきれいになった気がしました。拾う前の重い気持ちと拾った後の爽やかな気持ちとは大きく違います。皆さんも、捨てる人ではなくて、ぜひ、拾う人になってほしいと思います。この時、私は「一流の人間は始末ができる」という言葉を思い出しました。「始末」とは、私たちが一日使って汚れたところをきれいにすることです。つまり、清掃もそうです。また、自分で出したゴミをかたづけることもそうです。さらに、「自分の脱いだ靴をちゃんと揃える」ことや「席を立つときに、椅子をきちんと戻して揃える」・・・これらのことも自分の始末です。もっと言うと、一流の人間は、自分の失敗や間違いに気付いた時に、その始末もきちんとできます。

例えば、失敗したり、間違いをしたりしてしまい悲しくて、つらい気持ちになっても、始末のできる一流の人間は、自分の失敗や間違いを認め、時には謝罪して、改善に向けて頑張ることができるのです。一方で、その失敗や自分の間違いを隠したり、その場から逃げようとしたりする人がいます。一流の人間とは、失敗したり間違いったりした自分としっかり向き合い、そこから逃げずに取り組んで改善していける人です。

始末とは、「自分の身の回りの物の始末」の他に、「自分自身の始末」でもあるのです。

今お話ししたことは、たかが清掃のことと思いますが、実はその人の人間性につながっているのです。皆さんはどうですか。適当な清掃をする人ですか、心を磨く清掃ができる人ですか。また、ゴミを捨てる人ですか、それとも拾う人ですか。さらには、失敗や間違いを犯したときに、逃げる人ですか、自分で始末のできる人ですか。考えてみてください。



※ベルマークはもう集めていませんが、寄付したベルマークは、これまでの福祉委員会の活動で収集されたものです。

ベルマークは集めた後の整理が非常に大変です。枠がきれいに切り取られていないものは切り直し、分類番号ごとに整理して点数を数えます。委員の人数をもってしても、これらの作業には大変な労力と時間がかかったと思います。

今回の活動で **266,500 円** の金額に換えられ、上田いのみ園様と、いずみの様に車いす各 2 台を寄贈しました。これを機に、また高齢者福祉施設との交流が復活していくとよいです。ホームページもご覧ください。

1月8日(水)の東信ジャーナルに、第37期生徒会福祉委員会が寄贈した車いすの記事が掲載されました。

